

平成17年度

事業報告書

自 平成17年 4月 1日

至 平成17年 9月30日

国立大学法人高岡短期大学

国立大学法人高岡短期大学事業報告書

「国立大学法人高岡短期大学の概要」

1. 目標

高岡短期大学は、地域の多様な要請に積極的にこたえ、広く地域社会に対して開かれた特色ある短期大学として設置された。

このことを踏まえ、高岡短期大学は、教育を重視し、実践的、経験的な熟練教育を実施するとともに、感性豊かな、地域で活躍できる人材の育成を行い、また、地域社会に対し各種知的サービスを提供し、地域の産業・芸術・文化の発展や生涯学習の推進に役立つ、地域と共に発展する短期高等教育機関となることを目標とする。

2. 業務

高岡短期大学は、学科として、「産業造形学科」、「産業デザイン学科」、「地域ビジネス学科」の3学科を置き、また、専攻科として、「産業造形専攻」、「産業デザイン専攻」、「地域ビジネス専攻」の3専攻を置き、教育・研究にあたっている。

また、地域社会との密接な連携の下に本学の教育研究等を広く地域社会に開放し、地域の要請に積極的にこたえる大学開放事業を実施しており、この大学開放事業を総括し推進するための教育研究施設として「大学開放センター」を設置している。「大学開放センター」では、産業界との連携協力を図るため、共同研究、受託研究等各種制度の実施・受入れを積極的に推進し、各種相談に応じるとともに、地域住民への支援協力として、生涯学習を促進するための機会提供を行い、公開講座、展示公開、施設開放及び特別公開講演会等の各種大学開放事業を推進している。

3. 事務所等の所在地

富山県高岡市二上町180番地

4. 資本金の状況

4,079,607,315円（全額 政府出資）

5. 役員状況

役員の数値は、国立大学法人法第10条により、学長1人、理事3人、監事2人。任期は国立大学法人法第15条の規定及び国立大学法人高岡短期大学学長選考会議規則の定めるところによる。

| 役職 | 氏名 | 就任年月日 (任期) | 主な経歴 |
|------------------------|------|--------------------------------------|---|
| 学長 | 西頭徳三 | 平成16年4月1日 (平成16年4月1日～平成19年10月31日) | 平成7年6月 愛媛大学農学部部長 " 9年5月 愛媛大学学長特別補佐 " 12年3月 愛媛大学副学長 " 15年11月 高岡短期大学学長 " 16年4月 国立大学法人高岡短期大学学長 |
| 理事 ・ 副学長 (常勤) | 水島和夫 | 平成16年4月1日 (平成16年4月1日～平成18年3月31日) | 平成8年7月 東京国立博物館総務部長 " 10年7月 メディア教育開発センター研究開発部教授 " 13年4月 高岡短期大学副学長 " 16年3月 高岡短期大学副学長退職(役員出向) " 16年4月 国立大学法人高岡短期大学理事・副学長 |
| 理事 ・ 副学長 (常勤) | 滝沢 浩 | 平成16年4月1日 (平成16年4月1日～平成18年3月31日) | 平成5年6月 株式会社野村総合研究所人材開発部部長 " 5年9月 高岡短期大学産業情報学科教授 " 12年4月 高岡短期大学地域ビジネス学科教授 " 16年4月 国立大学法人高岡短期大学理事・副学長 |

| | | | | |
|-------------|------|---|---|--|
| 理事 (非常勤) | 荒井公夫 | 平成16年4月1日 〔平成16年4月1日～ 平成18年3月31日〕 | 昭和58年 5月 " 63年 6月 平成16年 4月 " 17年 4月 | 高岡市助役 三協化成(株)社長 学校法人荒井学園副理事長 " 理事長 |
| 監事 (非常勤) | 坂根徹夫 | 平成16年4月1日 〔平成16年4月1日～ 平成18年3月31日〕 | 平成 2年 4月 " 8年 4月 " 13年 4月 " 15年 4月 " 15年 4月 | 慶応義塾大学環境情報学部教授 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー学長 情報科学芸術大学院大学学長 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー 名誉学長 情報科学芸術大学院大学名誉学長 |
| 監事 (非常勤) | 高柳卓三 | 平成16年4月1日 〔平成16年4月1日～ 平成18年3月31日〕 | 平成元年 5月 " 4年 3月 " 4年 6月 " 5年 6月 | 日本銀行金沢支店長 日本銀行人事局参事 株式会社富山銀行取締役副頭取 株式会社富山銀行代表取締役頭取 |

6. 職員の状況

教員 56人

職員 36人

(平成17年5月1日現在)

7. 学科等の構成

学 科 産業造形学科
産業デザイン学科
地域ビジネス学科

専攻科 産業造形専攻
産業デザイン専攻
地域ビジネス専攻

8. 学生の状況

総学生数 506人

学科学生 424人

専攻科学生 82人

(平成17年5月1日現在)

9. 設立の根拠となる法律名

国立大学法人法

10. 主務大臣

文部科学大臣

1.1 . 沿革

| | | |
|-------|-----|--|
| 昭和58年 | 10月 | 高岡短期大学(所在地 富山市五福(富山大学構内))が開学する。 |
| 昭和60年 | 3月 | 高岡短期大学を富山大学工学部構内(高岡市中川)へ移転する。 |
| 昭和61年 | 3月 | 高岡短期大学を高岡市二上町に移転する。 |
| 昭和61年 | 4月 | 短期大学開放センターが設置される。 |
| 昭和63年 | 4月 | 専攻科地域産業専攻が設置される。 |
| 平成 7年 | 4月 | 専攻科(1年制,1専攻)が2年制,3専攻(産業造形専攻・産業デザイン専攻・地域ビジネス専攻)に再編改組されると共に,学位授与機構が定める要件を満たす専攻科として認定される。 |
| 平成12年 | 4月 | 学科が,従前の2学科(産業工芸学科,産業情報学科)から,3学科(産業造形学科,産業デザイン学科,地域ビジネス学科)に再編改組される。 |
| 平成13年 | 4月 | 保健管理センターが設置される。 |
| 平成16年 | 4月 | 国立大学法人法の施行によって,国立大学法人となる。 |

1.2 . 経営協議会・教育研究評議会

経営協議会(国立大学法人の経営に関する重要事項を審議する機関)

| 氏 名 | 現 職 |
|---------|------------------|
| 西 頭 徳 三 | 高岡短期大学長 |
| 水 島 和 夫 | 高岡短期大学理事・副学長 |
| 滝 沢 浩 | " 理事・副学長 |
| 堀 江 秀 夫 | " 産業造形学科長 |
| 森 田 力 | " 産業デザイン学科長 |
| 近 藤 潔 | " 地域ビジネス学科長 |
| 齋 田 道 男 | 富山県副知事 |
| 橘 慶一郎 | 高岡市長 |
| 南 義 弘 | 高岡商工会議所会頭 |
| 楠 顕 秀 | 前高岡市生涯学習センター所長 |
| 木 村 光 佑 | 前京都工芸繊維大学長 |
| 末 坂 幸 子 | 高岡市デザイン・工芸センター所長 |

教育研究評議会(国立大学法人の教育研究に関する重要事項を審議する機関)

| 氏 名 | 現 職 |
|---------|--------------|
| 西 頭 徳 三 | 高岡短期大学長 |
| 水 島 和 夫 | 高岡短期大学理事・副学長 |

| | | |
|---------|---|------------|
| 滝 沢 浩 | 〃 | 理事・副学長 |
| 堀 江 秀 夫 | 〃 | 産業造形学科長 |
| 森 田 力 | 〃 | 産業デザイン学科長 |
| 近 藤 潔 | 〃 | 地域ビジネス学科長 |
| 佐 藤 孝 紀 | 〃 | 図書館長・学長補佐 |
| 立 浪 勝 | 〃 | 保健管理センター所長 |
| 野 瀬 正 照 | 〃 | 学長補佐 |
| 秦 正 徳 | 〃 | 学長補佐 |
| 小 堀 孝 之 | 〃 | 学長補佐 |
| 前 田 一 樹 | 〃 | 学長補佐 |
| 林 暁 | 〃 | 産業造形学科教授 |
| 三 船 温 尚 | 〃 | 産業造形学科教授 |
| 宮 崎 雅 司 | 〃 | 大学開放センター教授 |
| 安 達 博 文 | 〃 | 産業デザイン学科教授 |
| 吉 田 俊 六 | 〃 | 地域ビジネス学科教授 |
| 磯 部 祐 子 | 〃 | 地域ビジネス学科教授 |

「事業の実施状況」

・大学の教育研究の質の向上

1. 教育に関する実施状況

(1) 教育の成果に関する実施状況

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」= 現代G P

「特色ある大学教育支援プログラム」= 特色G P

(G P : Good Practice 「優れた取組」)

本学は、文部科学省の平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の募集に対し、積極的に応募するため、全学的な検討体制で取り組んだ。

この結果、本学から申請した「非言語と言語の融合による地域国際化教育 - 世界に開かれた高岡まちづくり - 」が採択された。

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」には、全国の国公私立大学等から509件の応募があり、本学を含め84件が採択された。

なお、本学は平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」が、平成16年度「現代的教育ニーズ取組プログラム」に「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業 - 地域と一体となった授業計画・実施・評価委員会によるものづくり教育 - 」が採択されており、今回採択された分は、3件目のG Pの採択となった。

特色G P 「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」及び現代G P 「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業」

- ・特色G P 「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施
 - ・取組みの継続・推進として
 - 特別講演「社会性を持ったものづくりの重要性」平成17年6月17日（金）
 - 特別講演「木工手道具に込められた工夫と手仕事の重要性について」
 - 特別講演「素材を切る - 鋭利な刃物での切削と仕上がりの美しさ - 」
 - ・教育成果等の視覚化として
 - 展示写真パネルの作成（35件）
 - ・教育環境の改善として

- 加工機械用手元照明の設置（13台）
- 生活者意識等の実態調査として
視覚化工夫についての調査（東京：平成17年6月22日（水）～24日（金））
海外調査（スウェーデン：平成17年9月18日（日）～27日（火））
- 地域連携基盤づくりのため
データベースシステム構築（業者発注済み）
- 現代GP「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業」を実施
「地域産業史」アンケート、「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」、「デザインの進め方」、「リビングデザイン」、「工芸品のお土産についてのデザインリサーチ」及び漆や金属の取組を実施している。
平成17年9月末までに、計5回の「炉端談義」委員会を高岡短期大学で開催した。
- 炉端談義シンポジウムを開催した。
日時：平成17年7月30日（土）
場所：高岡短期大学 講堂
第1部「炉端談義プロジェクト」取組報告
第2部パネルディスカッション
テーマ「工芸都市『高岡』をキャンパスに！」
講師・中川 衛氏（金沢美術工芸大学教授、人間国宝（加賀象嵌））
・植松豊行氏（松下電器産業株、パナソニックデザイン社社長）
・野田雄一氏（富山ガラス造形研究所教授）
第3部交流会
- 特色GP・現代GP合同シンポジウムを開催予定
予定日時：平成18年3月22日（水） 予定場所：富山大学高岡キャンパス

卒業後の進路

- 就職説明会や進路説明会等を実施し、学生の就職や進学等についての心構えと士気を高めた。
就職説明会（学科、専攻科2年生対象：平成17年4月、227人参加）
保護者との進路懇談会（平成17年7月、58人参加）
ものづくり工場見学会
（産業造形学科及び産業デザイン学科1年生対象：平成17年10月予定、定員40人）
進路説明会（学科、専攻科1年生及びその保護者対象：平成17年11月予定）
専攻科進路説明会（専攻科1年生対象：平成17年12月予定）
進路情報交流会（学科コース別に実施、平成18年1～2月予定）
美術系学生対象の就職セミナー（学科、専攻科1年生対象、平成18年1月予定）
- 平成17年4月に学生に提出させた進路希望調に基づき、学生への求人情報の提供を通して、学生毎に個別に進路指導を行っている。
進路担当教員だけでなく、各教員のネットワーク、卒業生のネットワークを通じて進路指導にあたる。

教育の成果・効果の検証

- 卒業・修了制作展を次のとおり開催する。
【学外展】
富山県民会館（美術館）平成18年2月10日（金）～14日（火）5日間（予定）
【学内展】
富山大学高岡地区（エントランスホール）
平成18年3月18日（土）～24日（金）7日間（予定）
- 各種作品展を学内外において20回開催する。
金屋町「さまのこ」フェスタ（平成17年4月：高岡市金屋町）
「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」展
（平成17年6～8月：氷見市海浜植物園、本学、氷見クリニック、ウイングウイング高岡）
高岡短期大学の紹介（平成17年6月：ウイングウイング高岡）
日本・フィンランド響きあう心展（平成17年6～7月：本学）
「洗心苑」のための家具制作作品展（平成17年7月：本学）
現代GP「炉端談義プロジェクト」展（平成17年7～8月：本学）
ラハティポリテクニクとの学生作品相互交流展
（平成17年9月：ラハティポリテクニク（フィンランド））
特別展「高岡短期大学展」（平成17年9月：本学）
産業デザイン学科学生作品展（ビジュアル基礎表現）（平成17年10月：本学）（予定）
第21回金工展（平成17年10月：本学）（予定）
第21回樹木との語らい展（平成17年10月：本学）（予定）

第19回漆工展(平成17年10月: 本学)(予定)
 さまのこアートインよっさ(平成17年10月: 高岡市吉久)(予定)
 第10回三造展(平成17年10月: 本学)(予定)
 公開講座受講者作品展(平成17年10月: 本学)(予定)
 産業デザイン学科学生作品展(CIデザイン, 製品デザイン, CG演習)
 (平成17年12月: 本学)(予定)
 産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方)(平成18年1月: 本学)(予定)
 産業造形学科学生作品展(CG入門, CG演習)(平成18年1月: 本学)(予定)
 産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)(平成18年3月: 本学)(予定)
 高岡短期大学卒業・修了制作展
 (平成18年2月: 富山県民会館美術館, 平成18年3月: 本学)(予定)

・ 学生作品21点をラハティ・ポリテクニク(フィンランド)にて展示公開した。
 平成17年9月9日(金)～22日(木)14日間

・ 制作した授業の成果物に対して, 出品を促している。
 20以上のコンペ, 展覧会, ワークショップなどのポスターを貼り出し, 学生への参加を促した。
 その結果, 毎日・DAS(社団法人 総合デザイナー協会)学生デザイン賞に入選4名等の成果を得た。また, 富山県デザイン展(平成17年11月開催予定)への出品も予定している。

・ 学位申請のためのガイダンスを実施
 新入生オリエンテーション 平成17年4月5日(火)
 学位申請書類の確認・個別指導(33名分)
 進路説明会での学位申請ガイダンス(平成17年12月開催予定)

(2) 教育内容等に関する目標

アドミッション・ポリシー(教育理念・目標)に応じた入学選抜

・ 各専攻ごとにアドミッション・ポリシーに基づき作成した面接票を用いて面接を実施した。面接では, 過去に制作した作品や調査書等の評価を含め, 短期大学2年間の基礎の上に, 更に専攻科2年間の教育を受けるに相応しい資質を持ち合わせているかどうかの観点から評価を行った。夏期選抜の実施結果は, 次のとおり。平成18年1月に各専攻とも若干名の募集で冬期選抜を行う予定としている。

| 専攻 | 入学定員 | 受験者 | 合格者 |
|--------|------|-----|-----|
| 産業造形 | 14 | 26 | 19 |
| 産業デザイン | 5 | 5 | 4 |
| 地域ビジネス | 6 | 10 | 8 |
| 計 | 25 | 41 | 31 |

・ 芸術文化学部の受験生獲得を目指し, 受験生及び高校教員・美術予備校教員に同学部への理解をさらに深めてもらうことを目的として, 下記のとおり教員向け説明会及び受験生向けオープンキャンパスを実施した。

説明会, オープンキャンパス開催にあたっては, 開催案内のチラシを作成し, 従来から志願実績のある高校・予備校に加え, 昨年から各地を訪問し開拓した高校・予備校にも開催通知とともにチラシを送付し, 周知に努めた。

・ 説明会, オープンキャンパスの実施状況は次のとおり。

(教員向け説明会)

開催日 平成17年6月28日(火) 参加者数 74校83名

実施概要 芸術文化学部の概要及び入試方法の説明に加え, 識者による講演会を実施した。

(オープンキャンパス)

第1回 開催日 平成17年7月21日(木) 参加者数 75校 232名

第2回 開催日 平成17年8月4日(木) 参加者数 92校 286名

実施概要 芸術文化学部の概要, 入試方法の説明, キャンパスツアー, 各コースの詳細な説明及び模擬授業を実施した。

・ 各地で開催される業者企画の大学説明会や高校内で開催されるガイダンスに説明者を派遣し, 芸術文化学部のPRに努めた。

| | (開催回数) | (派遣者数) |
|-----------|----------|----------|
| 業者主催大学説明会 | 16回 | 延べ41人 |
| 高校内ガイダンス | 4回 | 延べ7人 |

教育理念等に応じた教育課程の編成

- ・特色 G P 「学内を学生作品で埋めつくそうプロジェクト」を実施
 - ・取組みの継続・推進として
 - 特別講演「社会性を持ったものづくりの重要性」平成17年6月17日（金）
 - 特別講演「木工手道具に込められた工夫と手仕事の重要性について」
 - 特別講演「素材を切る－鋭利な刃物での切削と仕上がりの美しさ－」
 - ・教育成果等の視覚化として
 - 展示写真パネルの作成（35件）
 - ・教育環境の改善として
 - 加工機械用手元照明の設置（13台）
 - ・生活者意識等の実態調査として
 - 視覚化工夫についての調査（東京：平成17年6月22日（水）～24日（金））
 - 海外調査（スウェーデン：平成17年9月18日（日）～27日（火））
 - ・地域連携基盤づくりのため
 - データベースシステム構築（業者発注済み）
- ・現代 G P 『『炉端談義』方式による地場産業活性化授業』を実施
 - 「地域産業史」アンケート、「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」、「デザインの進め方」、「リビングデザイン」、「工芸品のお土産についてのデザインリサーチ」及び漆や金属の取組を実施している。
 - 平成17年9月末までに、計5回の「炉端談義」委員会を高岡短期大学で開催した。
 - ・炉端談義シンポジウムを開催
 - 日時：平成17年7月30日（土）
 - 場所：高岡短期大学 講堂
 - 第1部「炉端談義プロジェクト」取組報告
 - 第2部パネルディスカッション
 - テーマ「工芸都市『高岡』をキャンパスに！」
 - 講師・中川 衛氏（金沢美術工芸大学教授，人間国宝（加賀象嵌））
 - ・植松豊行氏（松下電器産業㈱，パナソニックデザイン社社長）
 - ・野田雄一氏（富山ガラス造形研究所教授）
 - 第3部交流会
- ・特色 G P ・現代 G P 合同シンポジウムを開催予定
 - 予定日時：平成18年3月22日（水） 予定場所：富山大学高岡キャンパス
- ・学生を複数のクラスに分けて行う複数クラス授業を実施
 - 本科1年前期産業工芸学科及び産業デザイン学科の専門教育科目「加工機械の安全操作」は28名と13名の2クラスに、専攻科1年前期産業造形専攻の専門科目「木材工芸制作法」は9名と9名の2クラスに分けて授業を行い、安全かつ充実した学習環境とした。
 - 本科2年前期産業造形学科の専門教育科目「挽物」9名と「木彫」4名について10名以下の少人数編成として充実した授業を行った。
 - 産業デザイン学科専門教育科目「C I デザイン」、「デザインの進め方」、「総合デザイン実習」は少人数に分け、情報収集・分析・コンセプトメイキングまで行った。
 - 本科基礎教育科目「英語の読み方」及び、地域ビジネス学科専門教育科目「英語会話基礎」、「英語会話入門」、「英語購読基礎」、「基礎中国語 A , B , C 」、「中国語基礎研究」で、複数クラス授業を実施した。

適切な成績評価等の実施

- ・全学的にシラバス（授業計画）作成基準として「高岡短期大学シラバス作成上の留意事項」を作成した。特に「学生の学習目標（授業の到達目標）」と「評価の方法・割合」の項目については、適切な成績評価との関連から記載の趣旨や記入例を示すなどにより、シラバス（WEB含む）の記載内容の充実が図られた。
- ・複数クラス分けにより実施している本科基礎教育科目「英語の読み方」及び「英語での表現」において、共通テキストの開発、共通定期試験の実施など適切な成績評価となるよう改善を行った。

（3）教育の実施体制等に関する目標 適切な教員の配置

- ・常勤職員の人事管理にあたっては、本年度も定員を設定し、定員の管理については、学科・課の枠を超えて学長が一元的な管理を行った。

教員の欠員補充については、全学的観点から、役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。

事務職員の人事交流については、富山県内外の国立大学と次のように実施した。

- ・学外への転出者4人（筑波大学1人、静岡大学1人、富山大学2人）
- ・本学への転入者3人（福井大学1人、富山大学2人）

教育に必要な施設・設備等の整備

- ・北陸地区国立大学において、学年暦、授業時間帯の統一化を検討。
平成17年後期には、受講科目1科目、提供科目1科目を双方向遠隔授業で実施する予定。
- ・平成16年度に策定した新学部ゾーニング（建物内部に必要な部屋、位置、大きさ等を計画していくこと）及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。
年度別改修計画に基づき、改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月（予定））を行い、実習室などを整備する。
- ・現在、3キャンパスでそれぞれ稼働中の図書館システムを今年度中に統一した図書館システムを導入することを決定して、平成17年9月末に入札を行い、平成18年3月稼働を予定している。
- ・新図書館組織図を基に図書館機能の連携について、各業務ごとの検討を開始した。
- ・キャンパス間のシャトルバスの運行及び学内使送等に関する打合せで、図書館の運送手段の確保についての打合せを行った。
- ・キャンパス間共通の図書館利用証のフォーマットを決定した。（学務系、情報系、図書系）
- ・新学部のための図書資料の予算も措置され現在購入図書を選定リストを作成中。

教育の質の改善

- ・教務委員会において、平成17年度前期も「学生による授業アンケート調査」を実施した。アンケート集計結果後には、各授業担当教員が、学生に対するコメントを作成し公表する予定である。
- ・複数クラス分けにより実施している本科基礎教育科目「英語の読み方」及び「英語での表現」において、共通テキストの開発、共通定期試験の実施など適切な成績評価となるよう改善を行った。
- ・平成17年度前期科目（170科目）を対象に、授業アンケートを実施し、その結果を各教員に還元した。

多様な教育機会の提供

- ・専攻科1年生（40人）を対象にガイダンスを実施し、インターンシップ（学生が企業等において自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う制度）への積極的な参加を呼びかけた。その結果、もの作り関係企業の参加が少ない中で、島津製作所にインターンシップ1名が参加できた。
- ・新入生オリエンテーションで、学生の勉学意欲を高め、教育の一層の充実を図る趣旨から、単位互換制度について説明している。その結果、平成17年度前期において、富山大学授業科目履修者数は人文学部3名、経済学部4名、放送大学履修者数は8名であった。また、富山県大学連携協議会教育連携部会で単位互換についての検討が進められている。

（4）学生への支援に関する目標

学習支援への対応

- ・教員による「オフィスアワー」を実施し、時間帯の設定に際しては、教務委員会が学生の利便性を優先するよう全教員に周知徹底を図った。オフィスアワー一覧表は、ホームページに掲載するとともに、前期分は講義要項（冊子）に掲載した。後期分は、学生課掲示板にて周知予定。
- ・学生生活が充実し、効果的な学習や良好な人間関係ができるよう、次のとおり各種オリエンテーションを実施した。特に1泊2日の合宿研修においては、教職員と学生間の親睦が図られたことと合せ、十分な履修指導を行うことにより勉学意欲の向上が図られた。

| | | |
|--------|--------------|---|
| (学内) | 平成17年4月5日(火) | 新入生全体オリエンテーション(学科) 専攻別オリエンテーション(専攻科1・2年合同) 合宿研修オリエンテーション(学科) サークル活動オリエンテーション(学科) |
| | 平成17年4月6日(水) | 学科・履修コース別オリエンテーション |
| (合宿研修) | 平成17年4月6日(水) | 学科・履修コース別オリエンテーション |
| | 平成17年4月7日(木) | 学科・履修コース別オリエンテーション |
| | 平成17年4月8日(金) | 新入生全体オリエンテーション(学生課関連) 学科コース別オリエンテーション(学科2年) |

・平成17年9月～平成18年5月に来日する交換留学生(4人:ラハティポリテクニク)には、数人のチューター(留学生に対して、生活・教育・研究について個別に指導する学生)を付け、本学の教育及び学生生活の充実を図る。

また、チューターの任務などを掲載したマニュアルを配布し、留学生とチューター間の良好な関係に寄与させる。

・就業規則に業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており、学生課職員について、職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにし、昼食時や授業終了時等の窓口対応を、勤務時間内に実施できるようにした。

就職支援への対応

- ・就職説明会や進路説明会等を実施し、学生の就職や進学等についての心構えと士気を高めた。
就職説明会 (学科, 専攻科2年生対象:平成17年4月, 227人参加)
保護者との進路懇談会 (平成17年7月, 58人参加)
ものづくり工場見学会
(産業造形学科及び産業デザイン学科1年生対象:平成17年10月, 定員40人)(予定)
進路説明会 (学科, 専攻科1年生及びその保護者対象:平成17年11月)(予定)
専攻科進路説明会 (専攻科1年生対象:平成17年12月)(予定)
進路情報交流会 (学科コース別に実施, 平成18年1～2月)(予定)
美術系学生対象の就職セミナー (学科, 専攻科1年生対象, 平成18年1月)(予定)

採用情報の提供

- ・大学に届いた求人案内については、進路資料室に配置する他、各進路委員にも送付し各学科・コース単位で学生が閲覧できる体制となっている。
また、各指導教員が独自の立場で知り得た求人情報や、進路担当教員以外の各教員のネットワークによる情報についても、所属進路委員及び学生課を通して配信した。
- ・履歴書・エントリーシート等の添削及び面接指導
各学科・コースで進路委員と指導教員が連携を図り、履歴書・エントリーシート・編入学志望理由書等の添削や面接指導を実施した。

資格の取得

- ・「国内旅行業務取扱主任者資格」、「簿記検定」、「日本語漢字能力検定」、「日本語文書処理技能検定(ワープロ検定)」、「秘書検定」など、就職に関係する資格の取得を奨励し、受験情報の提供を行った。

・進路委員と指導教員が連携を図り、履歴書、エントリーシート等の添削や面接指導を実施している。

東京シンポジウムにおいて将来の就職先となり得る関係者と積極的に情報交換した。

・年間を通しての企業訪問は、進路委員の他各教員の協力により、機会を問わず随時実施しており、これまでも求人案内を確保している。

研究、技術指導のために関係を持った企業に、求人をお願いして求人にも努力している。

生活支援への対応

・平成16年度のカウンセリング実施時間(242時間)を平成17年度には54時間増加し、計74日、296時間のカウンセリングを計画しており、相談者数は平成17年8月8日(月)現在延べ81人である。

実施日は原則として、1日につき4時間とし以下のように実施した。

- ・毎週木曜日, 13時30分～17時30分
- ・第1, 第2金曜日, 14時00分～18時00分

・緊急時対応用の冊子「In case of an EMERGENCY」を新入学生に配布し、全学生が所持するようにするとともに、学生の安全について注意を喚起した。

- ・健康相談を新生全員の面接を行う方法で平成17年6月に実施した。
- ・セミナー等を次のとおり実施した。
 - 小セミナー
 - 平成17年4月「あなたはアルコールに強い？弱い？」 参加者 47名
 - 平成17年5月「どうしよう・・・。一人暮らしの食生活」参加者 23名
 - 平成17年6月「こころとからだにやさしいセルフケア，マンスリービクスの実践」参加者 5名
 - 栄養相談
 - 平成17年10月29日（土）（予定）
 - 栄養セミナー（調理実習・講義を含む。）
 - 平成17年6月 1回 参加者19名
 - 平成17年11月 2回（予定）

・（新）富山大学創設のための新大学創設準備推進委員会に設置した管理運営部会において，キャンパス間の移動手段について検討を行った結果，学生，教職員の利便や国会審議等を踏まえ，平成18年4月からキャンパス間を結ぶシャトルバスを運行することとした。
 なお，運行の詳細については，今後検討を行う。

- ・平成17年度授業料免除前期分として，31名を免除した。
 内訳：全額免除27名，半額免除4名
 学生募集要項，学生便覧（ホームページにも掲載）に掲載したほか，授業料免除説明会を開催するに当たり，掲示及び学内放送にて説明会開催の周知を図った。
- ・国，地方公共団体その他奨学金提供団体からの情報を学生課掲示板に掲示した。

課外活動支援への対応

- ・サークル活動に必要な用具及び消耗品を購入し配布した。
- ・てつそん部のプレ大会開催に当たり，大学備品及び建物の使用について配慮した。
- ・サークル顧問会議を秋以降開催の予定。

2 研究に関する目標

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標

目指すべき研究・制作の方向性

- ・「工芸都市高岡 伝統と革新」展
 本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより，大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会を開催している。
 場 所：高岡市美術館
 期 間：平成17年9月16日（金）～10月16日（日）
 見学者数：約2,200人
 富山・高岡地域の発展を目指し，海外在住で活躍されている芸術家等を招いて，芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。
 場 所：ウイング・ウイング高岡
 開催日：平成17年9月30日（金）
 テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」
 参加者数：約330人

成果の社会への還元方策

- ・教員及び学生の展覧会出品・開催情報（個展の開催を含む）を本学のホームページに掲載するため教員に情報の提供を求め，公開した。（公開件数13件）
- ・芸術文化学部の紀要（創刊号）の編集作業を行っている。
- ・本学ホームページで，教員の略歴や研究業績，実施可能な共同研究課題などを紹介している。
- ・地域の方々に対し高岡短期大学の歩みや活動の集大成を紹介する「高岡短期大学展」を開催した。
 展示内容：教員の成果発表パネル・作品等の展示，大学開放センターの沿革，歴代の関係事業

のポスター等

場 所：高岡短期大学

期 間：平成17年9月17日（土）～9月30日（金）

見学者数：約2,200人

・教職員が県，市など公的機関の各種委員会委員，審査員，研修会講師等に委嘱されており，平成17年度の兼業従事事件数は135件であり，県，市関係の兼業従事事件数は47件であった。

・コンサルテーション（技術相談）として，次のような相談があり，実施に結びつけた。

附属病院の国際交流事業の記念品制作について

附属病院の功労者表彰の記念品制作について

成人式のパンフレットのデザインについて

道の駅のパブリックアート等の制作について

電気製品のデザインについて

3次元5軸制御レーザ加工機の操作盤のデザインについて

附属病院の受付パネル等のデザインについて

（2）研究実施体制等の整備に関する目標

適切な研究者等の配置に関する具体的方策

・教員の補充に関して，選考方法は全学的観点から，今後必用とされる専門分野並びに対応しうる人物の選考を行うこととし，役員会，教育研究評議会の議を経て採用を決定した。

研究・制作に必要な施設・設備等の整備

・平成16年度に策定した新学部ゾーニング及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。

年度別改修計画に基づき，改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月（予定））を行い，実習室などを整備する。

・現在，3キャンパスでそれぞれ稼働中の図書館システムを今年度中に統一した図書館システムを導入することを決定して，平成18年3月稼働を予定している。

・新図書館組織図を基に図書館機能の連携について，各業務ごとの検討を開始した。・キャンパス間のシャトルバスの運行及び学内使送等に関する打合せで，図書の運送手段の確保についての打合せを行った。

・キャンパス間共通の図書館利用証のフォーマットを決定した。（学務系，情報系，図書系）・新学部のための図書資料の予算措置され現在購入図書の選定リストを作成中。

研究・制作の質の向上

・計画評価委員会において，教員の評価方法等について，既に教員の個人評価を実施した国立大学等の例を参考に，個人評価の目的，評価項目などを中心に，基本的な考え方について検討を行った。

この結果，教員の評価について個人評価実施の基本的な考え方を次のとおり決定した。ただし，その実施時期については，平成17年10月に再編・統合される（新）富山大学における全学的な審議を経たうえで実施することとした。

評価項目

教育に関する活動

研究に関する活動

社会（地域）貢献に関する活動

大学運営に関する活動

・教育研究活動を促進するため，研究経費にインセンティブ配分（研究を促進する意欲を高めるための経費配分）を第1次（平成17年9月配分）と第2次（平成17年12月配分（予定））で実施する。

教育研究インセンティブ経費

該当教員に対して1人当たり5万円を配分する予定。

・科学研究費補助金の新規応募者（平成17年12月配分予定）

・教育GP検討委員（11人）

・公募展入選者のうち助教授，講師，助手（平成17年12月配分予定）

・学生の投票により選出されたベストティーチャー（5人）

・プロジェクト授業の申請代表者（3人）

公開講座インセンティブ経費
公開講座・公開授業について開設講座・授業数，開設時間数，受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い，主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する予定。（平成17年12月配分予定）

・新学部の設立に合わせて，「創設記念展」，「特別展」への出展・発表により，地域の方による評価を促進する予定である。

知的財産の活用等

・平成17年7月29日（金）「工芸都市高岡 伝統と革新」展関係者を対象に知財説明会を開催した。

・平成17年9月15日（木）権利保護の方策として（社）日本デザイン保護協会の「創作デザインの寄託」への申請を教員に促し，1件申請した。教員へ知的財産への意識付けをすることができた。

・平成17年12月上旬 特許セミナーを開催する予定。
富山県知的所有権センターのアドバイザーによるセミナーも開催予定。

3 その他の目標

(1) 社会との連携，国際交流等に関する目標

地域住民への支援・協力

・平成17年6月末産学連携に関するニーズ調査報告書を商工会議所に届け，内容について説明した。平成17年7月商工会議所の本学視察研修の際，ニーズ調査報告書の結果について説明した。

・小・中学生を対象とした「ものづくり講座」

・平成16年度に行った高岡市の全小・中学校（児童・生徒約6千人）に対するアンケート結果の分析を行った。本アンケート結果を踏まえて，平成17年度大学等開放推進事業（Jr.サイエンス事業）に応募し採択となり，下記のとおり実施した。

講座名：「金属をとがして みがいて 新発見！」

開催時期：平成17年8月8日（月）～9日（火）

参加者：小学生53名，小中学校教諭等20名。

高岡市が構造改革特区構想として「ものづくり・デザイン科」の科目を設けて「ものづくり教育」に取り組んでいることから，高岡市教育委員会職員，小・中学校教員にも，子供たちと同時に受講してもらい，次年度以降の指導の一助となるよう配慮した。

また，志貴野中学校及び横田小学校からの要請に応えて，ものづくりの教授方法を教えるために教員を派遣した。

平成17年10月には「ものづくり」に関する小・中・高・大連携のために市内小中学校及び地元高校の教員との座談会を開催する。

・各種作品展を学内外において20回開催する。

金屋町「さまのこ」フェスタ(平成17年4月：高岡市金屋町)

「地場産杉を使用したインテリア・家具の提案」展

(平成17年6～8月：氷見市海浜植物園，本学，氷見クリニック，ウイングウイング高岡)

高岡短期大学の紹介(平成17年6月：ウイングウイング高岡)

日本・フィンランド響きあう心展(平成17年6～7月：本学)

「洗心苑」のための家具制作作品展(平成17年7月：本学)

現代GP「炉端談義プロジェクト」展(平成17年7～8月：本学)

ラハティポリテクニクとの学生作品相互交流展

(平成17年9月：ラハティポリテクニク(フィンランド))

特別展「高岡短期大学展」(平成17年9月：本学)

産業デザイン学科学生作品展(ビジュアル基礎表現)(平成17年10月：本学)(予定)

第21回金工展(平成17年10月：本学)(予定)

第21回樹木との語り展(平成17年10月：本学)(予定)

第19回漆工展(平成17年10月：本学)(予定)

さまのこアートインよっさ(平成17年10月：高岡市吉久)(予定)

第10回三造展(平成17年10月：本学)(予定)

公開講座受講者作品展(平成17年10月：本学)(予定)

産業デザイン学科学生作品展(CIデザイン，製品デザイン，CG演習)

(平成17年12月：本学)(予定)

産業デザイン学科学生作品展(デザインの進め方)(平成18年1月：本学)(予定)

産業造形学科学生作品展(CG入門，CG演習)(平成18年1月：本学)(予定)

産業デザイン学科学生作品展(新聞広告評価展示)(平成18年3月：本学)(予定)

高岡短期大学卒業・修了制作展
(平成18年2月：富山県民会館美術館,平成18年3月：本学)(予定)

- ・「工芸都市 高岡伝統と革新」展
本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会を開催している。
場 所：高岡市美術館
期 間：平成17年9月16日(金)～10月16日(日)
見学者数：約2,200人
富山・高岡地域の発展を目指し、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。
場 所：ウイング・ウイング高岡
開催日：平成17年9月30日(金)
テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」
参加者数：約330人
- ・公開講座を23講座開設した。
平成17年9月現在、20講座を実施し、受講者数は、募集定員314人に対し348人となった。
- ・公開授業
前期106科目、後期82科目を「公開授業」として開設し、前期22名の受講者があった。
- ・インセンティブ
公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する予定。(平成17年12月配分予定)
- ・高等学校の生徒に大学レベルの教育を提供
小杉高等学校生を対象とした1講座を開設した。
「圧迫鋳造による銀の指輪作り」
平成17年5月～6月(全4回)受講者：11名
富山北部高等学校生を対象とした1講座を開設した。
「デザイン」
平成17年7月(全5回)受講者：10名
- ・現代GP「『炉端談義』方式による地場産業活性化授業」の一環として、地域の企業と産学連携授業を行い、交流を深め、授業成果(学生作品)を「地場産杉を使用したインテリア家具」として連携企業等へ提案した。
- ・富山県デザイン協会への参加は、昨年度38名であったが、今年度は54名と増え、80%以上の学生が入会している。
- ・プロジェクト授業としてネクタイのデザイン、和紙あんどんの制作を行った。
- ・GP関連の展示会、講演を通じ県内企業との共同活動を行った。
- ・地域住民等へ、大学の行事あるいは学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に積極的に開放している。
また、利用者へのサービス向上のため体育施設については本学ホームページにて、予約状況及び使用料金の情報を発信している。

地域との連携・協力

- ・平成17年度においても、国又は地方公共団体等の公共機関の委員会委員等への教職員の参画については、無報酬(適正な範囲で支給される交通費を含む)の場合には、勤務時間内に従事させている。平成17年度の兼業従事件数は135件であり、内47件は勤務時間内での従事を許可した。
- ・今年度も引き続き「富山コラボレーション推進連絡協議会」の地域貢献事業として「インキュベーション教育事業」を実施している。
同事業は、起業や作家・デザイナーとしての独立を目指す本学の学生・卒業生に対して、作業場として高岡市のインキュベーション施設を借り上げ、本学の3学科の教員がプロジェクトチームを結成し、技術面、デザイン面及び経営面でのサポートを行うものである。
今年度は、富山医科薬科大学附属病院の国際交流事業の記念品作成を行い、高岡市の「道の駅」パブリックアート等の制作に参画することとなった。
また、本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会「工芸都市高岡 伝統と革新」展を開催している。
場 所：高岡市美術館

期 間：平成17年9月16日（金）～10月16日（日）
見学者数：約2,200人
富山・高岡地域の発展を目指し、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。
場 所：ウイング・ウイング高岡
開催日：平成17年9月30日（金）
テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」
参加者数：約330人

・20件の公開講座が富山県民カレッジの認定講座として、単位を交付している。

・平成17年6月末産学連携に関するニーズ調査報告書を商工会議所に届け、内容について説明した。平成17年7月商工会議所の本学視察研修の際、ニーズ調査報告書の結果について説明した。

・井波木彫刻工芸高等職業訓練校、富山ガラス造形研究所及び高岡銅器振興協同組合に技術指導等のため教員を派遣している。

・高岡市デザイン・工芸センターをはじめ、地場産学関連の協同組合等が主催する講演会、研修会や、井波彫刻工芸高等職業訓練校等に講師を派遣し技術指導を行っている。

・産学官連携に関する情報提供

- ・共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度については、本学ホームページの「大学開放活動」に制度の概要を掲載している。
- ・3大学統合後に上記制度についての公開方法を、編集中。
- ・3大学統合後に発行する研究者情報のデータを取りまとめ、CD-ROMを作成した。このデータは、(新)富山大学のホームページで公開することとした。

・高岡市創業者支援センターに作業場を構え、インキュベーション(起業支援)教育事業を実施。現在のところは、外部からの依頼を受け、学生が、教員スタッフの技術面、デザイン面、マーケティング等に関する指導を得て活動しており、富山医科薬科大学からの依頼による記念品、高岡市からの依頼による道の駅のパブリックアート及び成人式のパンフレットデザイン等の依頼を受け制作等を行っている。

地域の大学との連携

・平成17年8月25日（木）に富山市において、「平成17年度富山県大学連携協議会FD研修会」が実施され、本学からも学長及び各学科の教員計10名が参加した。

また、富山県大学連携協議会教育連携部会において、平成17年度にテーマ「還日本海地域から見つめる海との共生」と題し公開講座を平成17年10月～11月に4回、計8科目を実施することとなった。

FD (Faculty Development: ファカルティ・デベロップメント(教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称))

国際交流に関する方策

・本年度、ラハティポリテクニクに産業造形学科1名、専攻科産業造形専攻2名の交換留学生を派遣し、ラハティポリテクニクからは4名を受け入れることとした。

・大連外国語学院に語学研修を実施し、ビジネス学科14名が参加した。

(期間:平成17年8月15日(月)～31日(水))

ウエスタンオレゴン大学の語学研修には、ビジネス学科13名が参加した。

(期間:平成17年8月17日(水)～9月12日(月))

・ラハティポリテクニク(フィンランド)で学生作品展を開催するに当たり、高岡フィンランド協会へ呼びかけ、同協会が現地に赴き視察することとなった。また、同協会と共催で「日本-フィンランド 響きあふ心展」を開催した。

職員が、高岡フィンランド協会理事を勤めるとともに高岡市国際交流協会会員として、地域の関係団体との連携・協力体制の強化に努めるとともに、留学生が参加する各種のイベントの企画・実施にも広く関わっている。

業務運営の改善及び効率化

1 運営体制の改善に関する目標

効果的・機動的な運営

- ・学長補佐を置き、それぞれの業務について、学長を補佐した。
 - 再編・統合担当学長補佐 2名
 - 富山県内3大学の再編・統合協議や新学部設置の準備作業などを担当
 - 大学間連携協力担当学長補佐 1名
 - 富山県内の大学間連携及び北陸地区の大学間連携を担当
 - 教育G P担当学長補佐 1名
 - 文部科学省の教育G Pに選ばれた本学の取組の実施を担当
 - 芸術文化学部広報担当学長補佐 1名
 - 富山県内3大学の再編・統合により設置する新学部の広報を担当
- ・芸術文化学部の目標、計画、自己点検・評価などに係る組織は、芸術文化学部設置準備委員会で、検討のうえ、芸術文化学部に学部運営委員会を設置し、芸術文化学部の計画・評価を実施することとした。
 - 学部運営委員会の構成
 - 学部長、副学部長、学部長補佐、評議員、造形デザイン会議及び造形文化会議並びにプロジェクト推進会議の各議長、学部長が指名する者、事務部長
- ・芸術文化学部の教授会の運営方法や審議事項等に関して、芸術文化学部教授会の審議事項の内、人事等に関する事項は、人事教授会で審議する。また学校教育法施行規則第66条の2の規定に基づく代議員会等として、学部運営委員会を設置することとした。
- ・学内委員会の議事要旨については、決定事項等の周知迅速化のため、次回以降の委員会で議事要旨の確認がなされる前に、案を作成した段階で学内専用の議事要旨掲載ホームページに掲載することとしている
- ・芸術文化学部と高岡短期大学部の組織を効果的かつ活動的に運営するため、芸術文化学部教授会、学部運営委員会を設置する他、各種委員会を設置することとした。また、教育組織として教育部（造形デザイン会議・造形文化会議）を置き、研究組織として研究部（プロジェクト推進会議）を置くこととした。
 - （新）富山大学の設置に伴い、本学は高岡短期大学部となり、在学生がいる間は存続することとなり、そのため、学則、教授会、学科会議等について、現在の体制をもとに新たな組織に対応することとした。
- ・芸術文化学部の委員会等の運営に教員と事務職員が一体となって取り組むため、学部運営委員会に事務職員が委員として加わることとした他、情報広報委員会、危機管理委員会にも事務職員が委員として加わることとした。また、入学試験委員会、教務委員会、進路委員会等については、教員と事務職員が一体となって取り組めるよう委員会に事務職員が加わることについて、継続して審議することとした。

内部監査機能の充実

- ・会計業務の内部統制等について会計監査人の意見を参考に会計業務の処理方法等を改善し、内部牽制体制を確保した。
 - （新）富山大学の設置に伴い、事務部の組織の見直しを行い、監査のあり方、内部牽制体制の確保について検討を行った。

効果的な学内資源配分

- ・教員の評価結果を予算配分に反映させる方法を検討し、教育研究活動を促進するため、研究経費にインセンティブ配分を第1次（平成17年9月配分）と第2次（平成17年12月配分（予定））で実施する。
 - 教育研究インセンティブ経費
 - 該当教員に対して1人当たり5万円を配分する。
 - ・科学研究費補助金の新規応募者（平成17年12月配分予定）
 - ・教育G P検討委員（11人）
 - ・公募展入選者のうち助教授、講師、助手（12月配分予定）
 - ・学生の投票により選出されたベストティーチャー（5人）
 - ・プロジェクト授業の申請代表者（3人）
 - 公開講座インセンティブ経費
 - 公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員等に対してポイントに応じて総額160万円を配分する予定。（平成17年12月配分予定）

2 教育研究組織の見直しに関する目標

富山県内国立大学法人3機関の再編・統合協議

・新大学設置準備のため、3大学の代表で構成する新大学創設準備協議会を設置し、その下に、学長、副学長など少人数で構成する新大学創設準備推進委員会を設置して具体的な協議を実施した。

また、同推進委員会に設置された各種部会やワーキンググループに、教員及び事務職員を委員として参加させ、具体的な検討を行った。

新大学創設準備のための富山県内3大学による再編・統合関係会議開催回数は、84回であった。

学内には、本学を再編・改組して設置する予定の芸術文化学部に関し、芸術文化学部設置準備委員会を設置し、新学部発足に向け必要な事項の検討を行っている。芸術文化学部設置準備委員会の開催回数は12回であった。

また、全教職員を対象に、芸術文化学部に関する説明のための教職員集会を3回開催した。なお、庶務課内に再編・統合担当専門職員を1名配置し、また、新大学創設準備のために設置された新大学創設準備室に、事務職員を1名派遣しており、各種会議等の連絡調整等を行った。

3 人事の適正化に関する目標

柔軟な人事制度の構築

・常勤職員の人事管理にあたっては、本年度も定員を設定し、定員の管理については、学科・課の枠を超えて学長が一元的な管理を行った。

教員の欠員補充については、全学的観点から、役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。

事務職員の人事交流については、富山県内外の国立大学と次のように実施した。

- ・学外への転出者4人（筑波大学1人、静岡大学1人、富山大学2人）
- ・本学への転入者3人（福井大学1人、富山大学2人）

・本学の就業規則には、教員に裁量労働制を採用できる旨の規定、及び、業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており、教員に関して裁量労働制を適用している。

また、学生課職員について勤務時間割り振り変更し、職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにより、昼食時や授業終了時等の窓口対応を、勤務時間内に実施できるようにした。

（新）富山大学の就業規則においても、人事WGで検討を行い、同様の規定を設けることとなった。

・計画評価委員会において、教員の評価方法等について、既に教員の個人評価を実施した国立大学等の例を参考に、個人評価の目的、評価項目などを中心に、基本的な考え方について検討を行った。

その結果、次の項目について本学としての基本的な考え方を取りまとめた。

- ・教員の個人評価は、教育研究等の活性化のために実施するもので、各教員の基礎データを蓄積し、将来的には人事に利用することも視野に入れ評価を実施する。
- ・評価項目として、4つの大項目を設け、各項目にウエイト付けを行う。
 - 教育に関する活動
 - 研究に関する活動
 - 社会（地域）貢献に関する活動
 - 大学運営に関する活動

事務職員の資質の向上

・語学研修

教育・研究の国際化に対応するため、前年度に引き続き実施したが、本年度はウェスタンオレゴン大学における実地語学研修として、英語を実際に運用すること、並びに、論理的な思考方法と議論の仕方を習得することを目的として実施した。

受講者は2人で、平成17年8月17日（水）から8月30日（火）までの間に実施した。

・財務・会計研修

学外機関が主催した公認会計士による国立大学法人会計基準等に関する知識を習得するための研修会に1名が参加した。

（自然科学研究機構岡崎統合事務センター、平成17年9月、3日間）

・安全衛生管理研修

初任者を対象とした研修会を平成17年4月に1日実施し、13人が受講した。

・新大学創設準備推進委員会に設置された管理運営部会において、新大学の事務組織、人員配置等について本学職員も参加し検討を行い、芸術文化学部を含めた新大学の事務組織、人員配置等を決定した。

高岡地区には、総務管理課と学生課を置き、総務管理課にこれまで本学で培った地域連携・産学連携をより一層推進するため、地域連携室を置くこととした。
地域連携室は、室長、専門職員（生涯学習担当）、専門職員（産学連携）及び地域交流係で組織する予定。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標

・（新）富山大学の事務組織に応じた運営、各種事務処理の方法等について検討し、各キャンパスの連絡調整のために、事務協議会を設置することとした。
情報基盤整備を前倒しし、事務システムの共通化を図り、事務処理の簡素化、迅速化を図ることとした。

情報基盤整備に要する経費

平成17年度 約330百万円

平成18年度 約180百万円

グループウェアの積極的な利用により、各種連絡業務等の簡素化を図ることとした。

・「国立大学法人富山大学事務情報化実施計画」を制定し、次の項目を進めることとした。

レンタルパソコン、老朽化パソコン等の更新・整備

事務系職員が使用するソフトウェアの標準化及び更新、整備並びに管理（ソフトウェアの標準化は、「国立大学法人富山大学における事務用ソフトウェア及び事務系職員が用いる情報交換用ファイルの標準化について（方針）」による。）

全学的なグループウェアの導入

通知文書・会議資料等の電子化

各課等が保有する資料等のデータベース化

事務系職員の情報に関する研修会・講習会

特に、ソフトウェアの統一化については、ソフトウェア等を管理する部署が必要と認めたソフトウェア以外のインストールを禁止し、パソコンの障害やネットワークに障害を与えることのないよう、厳格なルール化を図った。

・再編・統合する富山県内3国立大学法人において、富山大学が中心となり、広報用印刷物の一括調達事務を行い、調達業務が軽減できた。

平成17年度調達額 5件 405千円

・再編・統合する富山県内3国立大学法人において、統合後の旅費関係業務について、分科会を設置し、平成18年4月導入を目指してアウトソーシング（業務の外部委託）の実施に向けて検討を行った。

・前年度実績を基に、削減額をシュミレーションして検討した。

・デモンストレーションにより、利用者及び業務担当者の利便性及び改善が必要な点等を検討した。

財務内容の改善

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

・教育研究活動を促進するため、研究経費にインセンティブ配分を第1次（平成17年9月配分）と第2次（平成17年12月配分（予定））で実施する。

教育研究インセンティブ経費

該当教員に対して1人当たり5万円を配分する。

・科学研究費補助金の新規応募者（平成17年12月配分予定）

・教育GP検討委員（11人）

・公募展入選者のうち助教授、講師、助手（平成17年12月配分予定）

・学生の投票により選出されたベストティーチャー（5人）

・プロジェクト授業の申請代表者（3人）

公開講座インセンティブ経費

公開講座・公開授業について開設講座・授業数、開設時間数、受講者数及び受講率等についてポイント制の評価を行い、主任担当教員に対してポイントに応じて総額160万円を配分する予定。（平成17年12月配分予定）

・科学研究費補助金に関する説明会を次のとおり開催した。

平成17年8月30日科学研究費補助金の説明会（富山医薬大主催、本学を含む県内機関共催）を開催した。

本学から約20人出席

平成17年9月9日科学研究費補助金の説明会を双方向遠隔授業システムを利用し、富山大

学と共同で開催した。
本学から18人出席

- ・各種外部資金に関する情報を、教員に対しホームページで公開している。
- ・共同研究、受託研究及びコンサルテーション等の制度については、本学ホームページの「大学開放活動」に制度の概要を掲載している。
また、3大学統合後に発行する研究者情報のデータを取りまとめ、CD-ROMを作成した。このデータは、(新)富山大学のホームページで公開することとした。これにより、企業や自治体等関係者が、3大学の研究者情報のデータを閲覧することが容易になり、より一層の共同研究・受託研究が促進されることが期待される。
- ・地域住民等へ、大学の行事あるいは学生の授業・クラブ活動に支障のない日時に、テニスコート、グラウンド、体育館等を積極的に開放している。
また、体育施設については本学ホームページにて、使用料金の情報、予約状況(定期的に更新する)を発信し、地域住民等が利用しやすいようにした。

2 経費の抑制に関する目標

- ・再編・統合する県内3国立大学法人において、今後さらに経費の抑制を図るため、抑制が可能な事項の調査を行い、実施に向けて検討し、可能なものから実施した。
 - ・複写機の賃貸借、タクシーの借上、P C用紙の調達、燃料の調達を一括契約することとした。
 - ・雑誌や新聞など定期刊行物の購読部数を見直した。
 - ・常勤職員の欠員をパートタイム職員の採用で補い、人件費を削減した。(削減額 6ヶ月2人 550万円)
- ・再編・統合する富山県内3国立大学法人において、富山大学が中心となり、広報用印刷物の一括調達事務を行い、調達業務が軽減できた。
平成17年度調達額 5件 405千円
- ・再編・統合する富山県内3国立大学法人において、統合後の旅費関係業務について、分科会を設置し、平成18年4月導入を目指してアウトソーシングの実施に向けて検討を行った。
 - ・前年度実績を基に、削減額をシュミレーションして検討した。
 - ・デモンストレーションにより、利用者及び業務担当者の利便性及び改善が必要な点等を検討した。
- ・本学の就業規則には、教員に裁量労働制を採用できる旨の規定、及び、業務の都合により職員の勤務時間割り振りを変更できる旨の規定を設けており、教員に関して裁量労働制を適用した。
また、学生課職員について勤務時間割り振り変更し、職員2名の勤務時間を通常より1時間繰り下げることにより、昼食時や授業終了時等の窓口対応を可能とした。
(新)富山大学の就業規則においても、人事WGで検討を行い、同様の規定を設けることとなった。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ・これまで、資産の効果的・効率的な運用及び管理について、財務担当理事及び関係課において検討を行ってきたが、平成17年10月に本学を含めた富山県内3国立大学法人が再編・統合されるため、統合後の新大学において、体制を再検討することとした。
- ・本学においては、グループウェアを導入し、会議室、講義室等の状況をWEBで確認できるようにして、効率的に使用できるようにしている。
- ・体育施設については本学ホームページにて、使用料金の情報、予約状況(定期的に更新する)を発信し、地域住民等が利用しやすいようにした。
平成17年9月30日(金)までに受け付けた本学体育施設等利用者は、延べ13,622人であり、施設開放による収入は1,042千円であった。
- ・芸術文化学部の設置に向けて、これまでの講義室・研究室等の配置を全面的に見直し、スペースの効率的な利用を計画する組織として、芸術文化学部設置準備委員会に施設・整備部会を置き、施設の配置について検討を行い、平成17年度～平成19年度の学生が休業期間にかけて改修工事を行うこととした。

自己点検・評価及び情報提供

1 評価の充実に関する目標

計画評価委員会において、「平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書」の取りまとめを行い、年度計画の実施状況について自己評価を行った。
また、平成17年度の年度計画の実施状況について、平成17年8月に年度計画の各項目の主たる実施担当による自己点検・報告を求め、未実施の項目の実施促進等を図った。
芸術文化学部設置に向けて、芸術文化学部設置準備委員会において、芸術文化学部の目標、計画、自己点検・評価などに係る組織として、学部運営委員会を設置することとした。

2 情報公開等の推進に関する目標

・新大学創設準備推進委員会に設置した広報部会において、ホームページWG、ポスター・冊子WG、ロゴマークWGを設置し、ホームページ、ロゴマーク、広報用冊子、ポスター等の作成を行った。

これらのWGにおいて、本学からの選出委員が専門性を発揮し、WGが中心となり、(新)富山大学の広報活動を主導した。

・本学の教員が高岡の地場産業界や伝統職人の方々とコラボレーションすることにより、大学の持つ「知」と地域が持つ「技」を融合させた新規制作作品の展覧会「工芸都市高岡 伝統と革新」展を開催している。

場 所：高岡市美術館
期 間：平成17年9月15日(金)から
平成17年10月16日(日)
参加者：約2,200人

・富山・高岡地域の発展を目指し、海外在住で活躍されている芸術家等を招いて、芸術文化のあり方や日本文化の発信について考える記念フォーラムを開催した。

場 所：ウイング・ウイング高岡
期 日：平成17年9月30日(金)
テーマ：「世界が注目する日本の芸術文化」
参加者：約330人

・地域の人々や芸術文化関係者・教育関係者に、芸術文化学部を認知してもらうため、シンポジウムを計画し一部開催した。

芸術文化学部創設記念東京シンポジウム
「日本の未来と、地方・芸術文化・教育 - 文化都市善の融合で - 」

場 所：丸の内 MY PLAZA ホール(東京都千代田区)
期 日：平成17年6月10日(金)
パネリスト：養老孟司氏(解剖学者・東京大学名誉教授)
安川英昭氏(セイコーエプソン(株)取締役相談役)
中村史郎氏(日産自動車(株)常務デザイン本部長)
妹島和世氏(建築家・慶應義塾大学教授)
コーディネーター：伊東順二氏(長崎県美術館館長)
参加者：約400人

芸術文化学部創設記念シンポジウム

場 所：富山大学高岡地区講堂(予定)
期 日：平成17年11月12日(土)～13日(金)(予定)
テーマ：「万葉に未来を、たずねる IMAYOU」
パネリスト：坂根巖夫氏(IAMAS初代学長)
ジェリー・ショー氏(ニュー・サウス・ウェールズ大学イタケイブ・シネマ研究センター代表所長)
高田晃一氏(高田製作所常務取締役)
隈 研吾氏(隈研吾建築都市設計事務所代表取締役)
アレックス・カ氏(東洋文化研究家)
大樋年雄氏(大樋焼次期家元)
橋本夕紀夫氏(橋本夕紀夫デザインスタジオ代表)
その他芸術文化学部教員

・平成16年度の財務諸表、事業報告書等を作成・提出し、文部科学大臣の承認を受けた。これらについては、ホームページにおいて公開した。

また、平成16事業年度に係る業務の実績に関する報告書を本学のホームページ上に公開した。

・高岡短期大学の創設時からの教育、研究・制作、地域貢献等活動状況を取りまとめた「高岡短期大学二十二年の歩み」について、第一分冊（回想編）を平成17年9月に作成、配付した。全168頁、4,300部作成
また、第二分冊（資料編）については、平成18年3月発行の予定である。

その他の業務運営に関する重要事項

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

・平成16年度に策定した新学部ゾーニング及び年度別改修計画を平成17年度の予算化に伴い決定した。
年度別改修計画に基づき、改修工事（平成17年8～9月及び平成18年2～3月（予定））を行い、実習室などを整備することとした。

・多目的グラウンドの表土入れ替え改修を行い、屋外体育施設を整備する予定としている。

2 安全管理に関する目標

・安全衛生委員会を設置し、安全管理に関する研修会の実施、講習会の参加、資格の取得、構内の巡視及びポスターの掲示等による意識の啓蒙を行った。

研修会の実施

初任者を対象とした研修会を平成17年4月に実施し、13名が参加した。

外部の講習会への参加

刈払機取扱作業安全衛生教育（平成17年6月実施：1名参加）

構内の巡視

安全衛生委員により毎月実施し、点検を行い、不備な箇所については改善を要請

ポスターの掲示

全国安全週間ポスター16種類20枚を購入し、掲示板等に掲示

・学生及び職員を対象に適切な通報連絡と初期消火、迅速・安全・統制ある避難、自衛消防隊の任務・行動の理解、防火意識の高揚を目標とし、高岡消防署と連携した消防訓練を6月に実施し、約350名が参加した。結果は概ね良好であった。

・安全衛生委員が毎月の巡視において点検を行い、避難路の確保について注意喚起等を行っている。

・安全衛生委員会を毎月定期的に開催し、安全点検表を作成し、各室に配置した安全担当者が施設等を毎月点検して安全衛生委員会に報告し、不備な箇所については安全衛生委員会が改善を要請している。

また、本学における災害、盗難等の予防及び防止に関する対策を検討し、快適な大学環境を維持するため、危機管理対策委員会を設置した。

芸術文化学部においても、危機管理委員会を設置し、危機対策のマニュアルの作成、研修の実施等について検討することとしている。

・産業造形学科の専門教育科目「加工機械の安全操作（2単位）」、特別講義「金属加工機械の安全操作（1単位）」、特別講義「溶接（1単位）」（集中講義）を行い、木材及び金属加工機械の安全操作教育を徹底した。

産業デザイン学科では、特に危険な機械は使用しないが、他学科の授業である「加工機械の安全操作」と「金属加工機械の安全操作」の受講を進めており、今年度は4名と10名が受講した。

3 北陸地区の国立大学連合に関する目標

・北陸地区国立大学連合協議会において、富山県の3大学統合後に、平成17年度「北陸4大学連携まちなかセミナー」の実施について検討し、平成17年11月～12月に金沢市、福井市及び富山市において「食と健康」を全体テーマとして講演を行うこととした。

日 時 平成17年11月3日（木）（予定）

場 所 金沢大学大学教育開放センター

テーマ 生活習慣病の予防

日 時 平成17年11月12日（土）（予定）

場 所 福井大学アカデミーホール
 テーマ あなたをねらう糖尿病

日 時 平成17年12月10日(土)(予定)
 場 所 ウイング・ウイング高岡
 テーマ 元気で長生きするための食習慣

・ 予算(人件費見積含む。), 収支計画及び資金計画

1. 予算

(単位: 百万円)

| 区 分 | 予算額 | 決算額 | 差 額 (決算 - 予算) |
|---------------------|-------|-------|------------------|
| 収入 | | | |
| 運営費交付金 | 7 5 8 | 7 5 8 | - |
| 大学改革推進等補助金 | 1 8 | 1 8 | - |
| 施設整備費補助金 | 1 4 | 1 8 | 4 |
| 国立大学財務・経営センター施設費交付金 | 5 | 1 3 | 8 |
| 自己収入 | 6 4 | 6 6 | 2 |
| 授業料及入学金検定料収入 | 5 7 | 5 9 | 2 |
| 財産処分収入 | - | - | - |
| 雑収入 | 7 | 7 | 0 |
| 産学連携等研究収入及び寄附金収入等 | 8 | 5 | 3 |
| 計 | 8 6 7 | 8 7 8 | 1 1 |
| 支出 | | | |
| 業務費 | 8 2 3 | 5 4 8 | 2 7 5 |
| 教育研究経費 | 5 8 4 | 3 1 4 | 2 7 0 |
| 一般管理費 | 2 3 9 | 2 3 4 | 5 |
| 大学改革推進事業費 | 1 8 | 1 0 | 8 |
| 施設整備費 | 1 9 | 1 8 | 1 |
| 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等 | 7 | 3 9 | 3 2 |
| 計 | 8 6 7 | 6 1 5 | 2 5 2 |

2. 人件費

(単位: 百万円)

| 区 分 | 予算額 | 決算額 | 差 額 (決算 - 予算) |
|--------------------|-------|-------|------------------|
| 人件費(承継職員分の退職手当は除く) | 4 3 0 | 4 2 8 | 2 |

3. 収支計画

(単位: 百万円)

| 区 分 | 予算額 | 決算額 | 差 額 (決算 - 予算) |
|--------|-------|-----------|------------------|
| 費用の部 | 8 3 7 | 6 2 3 | 2 1 4 |
| 経常費用 | 8 3 7 | 6 2 3 | 2 1 4 |
| 業務費 | 7 6 0 | 5 0 6 | 2 5 4 |
| 教育研究経費 | 2 5 4 | 6 3 | 1 9 1 |
| 受託研究費等 | 1 | 0 | 1 |
| 役員人件費 | 3 9 | 3 7 | 2 |
| 教員人件費 | 3 1 9 | 2 6 1 | 5 8 |
| 職員人件費 | 1 4 7 | 1 4 5 | 2 |
| 一般管理費 | 6 1 | 9 8 | 3 7 |
| 財務費用 | - | - | - |
| 雑損 | - | 0 | 0 |
| 減価償却費 | 1 6 | 1 9 | 3 |
| 臨時損失 | - | - | - |
| 収入の部 | 8 7 1 | 1 , 0 3 2 | 1 6 1 |

| | | | |
|---------------|-----|-------|-----|
| 経常収益 | 871 | 1,032 | 161 |
| 運営費交付金 | 719 | 852 | 133 |
| 授業料収益 | 97 | 98 | 1 |
| 入学金収益 | 0 | 0 | 0 |
| 検定料収益 | 1 | 1 | 0 |
| 受託研究等収益 | 1 | 0 | 1 |
| 寄附金収益 | 6 | 39 | 33 |
| 財務収益 | 0 | 0 | 0 |
| 雑益 | 31 | 23 | 8 |
| 資産見返運営費交付金等戻入 | 11 | 10 | 1 |
| 資産見返補助金戻入 | - | 0 | 0 |
| 資産見返寄附金戻入 | - | 0 | 0 |
| 資産見返物品受贈額戻入 | 5 | 9 | 4 |
| 臨時利益 | - | - | - |
| 純利益 | 34 | 409 | 375 |
| 総利益 | 34 | 409 | 375 |

4. 資金計画

(単位：百万円)

| 区 分 | 予算額 | 決算額 | 差 額 (決算 - 予算) |
|-----------------|-------|-------|------------------|
| 資金支出 | 1,312 | 1,447 | 135 |
| 業務活動による支出 | 840 | 572 | 268 |
| 投資活動による支出 | 149 | 101 | 48 |
| 財務活動による支出 | - | - | - |
| 翌年度への繰越金 | 323 | 774 | 451 |
| 資金収入 | 1,312 | 1,447 | 135 |
| 業務活動による収入 | 848 | 862 | 14 |
| 運営費交付金による収入 | 758 | 758 | - |
| 授業料及入学金検定料による収入 | 57 | 59 | 2 |
| 受託研究等収入 | 2 | 1 | 1 |
| 寄附金収入 | 6 | 3 | 3 |
| その他の収入 | 25 | 41 | 16 |
| 投資活動による収入 | 19 | 27 | 8 |
| 施設費による収入 | 19 | 27 | 8 |
| その他の収入 | - | 0 | 0 |
| 財務活動による収入 | - | - | - |
| 前年度よりの繰越金 | 445 | 558 | 113 |

・短期借入金の限度額

短期借入れの該当無し。

・重要財産を譲渡し、又は担保に供する計画

重要財産を譲渡し、又は担保に供した実績無し。

・剰余金の使途

該当無し。

・その他

1. 施設・設備に関する状況

| 施設・設備の内容 | 決定額（百万円） | 財 源 |
|------------------|----------|------------------------|
| 校舎改修 （芸術文化学部） | 総額 18 | 施設整備費補助金 (18) |

2．人事に関する状況

- ・ 常勤職員の人事管理にあたっては、本年度も定員を設定し、定員の管理については、学科・課の枠を超えて学長が一元的な管理を行った。
- ・ 教員の欠員補充については、全学的観点から、役員会、教育研究評議会の議を経て1人の採用を決定した。
- ・ 事務職員の人事交流については、富山県内外の国立大学と次のように実施した。
 - ・ 学外への転出者4人（筑波大学1人，静岡大学1人，富山大学2人）
 - ・ 本学への転入者3人（福井大学1人，富山大学2人）
- ・ 事務職員の専門的能力や資質向上のため研修に参加した。
 - ・ 東海・北陸地区会計事務職員研修（平成17年9月7日（水）～9日（金））（岡崎） 1人
 - ・ 事務系職員英会話実地研修（平成17年8月17日（水）～30日（火））（アメリカ） 2人

・ 関連会社及び関連公益法人等

1．特定関連会社

該当無し。

2．関連会社

該当無し。

3．関連公益法人等

該当無し。